

センターにおける摂食・嚥下外来のご案内

—安心・安全に食べるために—

摂食・嚥下外来とは

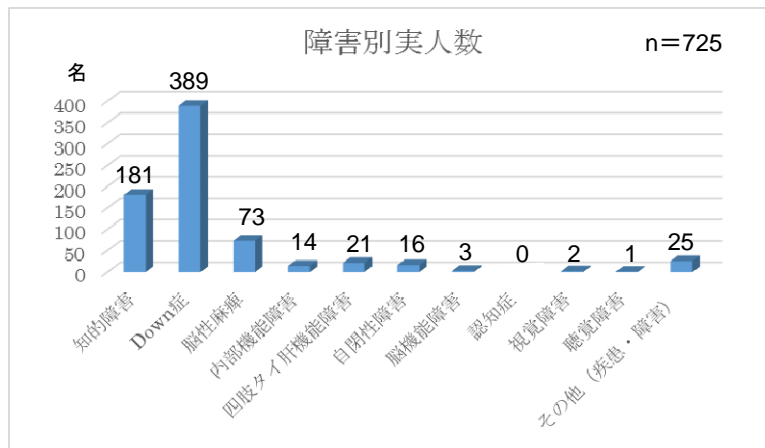
食べる機能（摂食・嚥下）の障害は、誤嚥性肺炎や窒息、低栄養や脱水の危険をもたらすばかりでなく、「食べる喜び」を奪い、本人や家族のQOLを低下させてしまいます。当センターの摂食・嚥下外来では、多職種によるリハビリテーションを行い、食べる機能の回復やQOLの向上を目指しています。

「離乳食の進め方がわからない」「よく嚥まない」「丸のみしてしまう」「むせる」など、食べることに困ってお困りの方を対象に、おいしく安全に食事ができるようアドバイスしています。

年齢別実人数

0～6歳	165名
7～12歳	49名
13～17歳	14名
18～39歳	13名
40～64歳	7名
65～74歳	0名
75歳以上	0名
合計	248名

平成24年度の摂食・嚥下外来状況



ライフステージと摂食・嚥下機能に応じた指導をしています

乳幼児期～学童期

- ・口の機能に合った離乳食の調理形態や介助方法などについてアドバイスをします。また、スプーンやコップを使った水分の取り方も練習します。
- ・一口量を覚え、手と口の協調運動を養うため手づかみ食べの練習をします。
- ・自分で食べる達成感や満足感を体験できるように使いやすい食具や持ち方、食器などを紹介します。



成人期

- ・獲得した食べ方に誤学習がみられる場合、正しい食べ方を身につけてもらえるようにアドバイスをします。今まで上手に食べられていたものがうまく食べられなくなることがありますので、食べ物の形態や姿勢などを検討し、安全に食べられるようにアドバイスをします。

老年期

- ・加齢や疾患などで、食べる機能が低下することがあります。誤嚥を防ぎ、安全に食事ができるようにします。

胃瘻や経管栄養などにより、口から食べられない方も VF、VE の検査で誤嚥の状態を確認し、安全性を考慮して食べる喜びを感じられるように取り組んでいきます。

センターで行っている検査

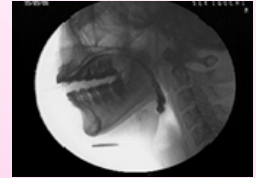
・嚥下造影検査 (VF)

飲み込みのスピードや誤嚥の有無など、透過画像により評価します。

安全な姿勢や食材の形態について指導します。



検査風景



透視画像

・嚥下内視鏡検査 (VE)

食材がよく嚥めているのか、唾液や分泌物・食塊などの咽頭残留の状態、喉の汚れなどをファイバースコープによる直視下で評価します。



ファイバースコープ



検査風景

摂食・嚥下外来 初診までの流れ

申し込み

* 電話 (または FAX) でお申込み (予約制)

TEL 03-3267-6480 FAX 03-3269-1213 受付時間 9:00~16:00



初診

* 医療面接、口腔内診査

現在の食べ方の状況を問診し、口の中の診査をします



摂食初診

* 診査、診断、評価、アドバイス

<持参していただくもの> 食べ方が気になる食べ物、飲み物、食具
初診時にお渡ししたアンケート

診療時間

診療日	月・水曜日
診療時間	午前 9 時~12 時、午後 1 時~4 時 30 分 1 回の診療時間は 45~60 分
対象	乳幼児~高齢者 (摂食・嚥下機能障害のある方や疑いのある方)
担当者	歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士 月に 1 回 昭和大学歯学部スペシャルニーズ歯科の先生による診察

◎食べ方や飲み込み方が気になる方や保護者・介助者の方で摂食・嚥下について悩んでいる方がいらしたらいつでもご紹介、ご相談ください。

(かかりつけ歯科にて歯科治療をしている方で、摂食・嚥下機能療法のみ指導することも可能です。)

(「連携だより」に関するお問い合わせは) 東京都立心身障害者口腔保健センター・医療連携室

TEL (03) 3235-1141 (代) / FAX (03) 3269-1213 / URL <http://www.tokyo-ohc.org>